

菜種の直播栽培に関する研究

第 1 報 播種期と品種の相違が生育,収量に及ぼす影響について

村井修・安部秀雄・山本保・多田正敏

以上総括すると播種期を異にした場合の生育状態は各品種とも早播ほど旺盛であり,又品種間においては抽苔の早いものほど生育が良好と認められた。

栽植本数については播種期の早いほど残存率が低く,おそいほど残存率が高くなる。又品種間について見ると熟期のおそいものが残存率が低く,早いほど高いことが判明した。

開花期は九州 47 号においては播種期の早晩により左右されるが,コガネナタネ,ミチノクナタネはあまり変わらない。

成熟期においてはミチノクナタネ,コガネナタネは播種期にはまったく差がないが九州 47 号は播種期間に 4 日の差が認められた。

総分枝数については 3 品種とも早播ほど多くなることが判明した。

子実重は各品種とも播種期がおそくなる程収量は減少することが認められる。

以上の結果から生育,収量ともに,コガネナタネ,ミチノクナタネが有望と思われ,又これらの播種期は 10 月下旬より 11 月上旬が適期であると推察された。